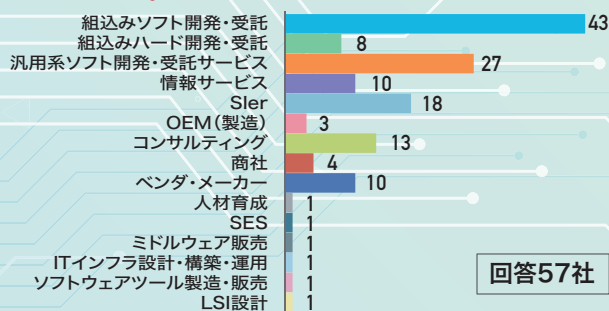


業界2025年の見通し

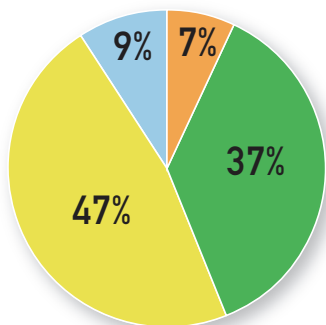
超高齢化社会を迎え誘発される経済や社会に及ぼす諸問題、DX推進の不十分さから問われる国際競争力、経済損失への懸念。「問題」「崖」と言われてきた2025年を迎えた。深刻化か軽減化が問われる一年ともなるが、果たして会員企業はどう向き合うのか。新年恒例の景気動向アンケートから紹介する。

Q1. 回答企業の主たる事業 (複数回答)



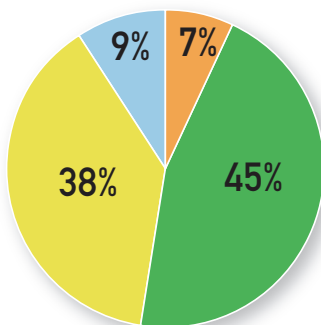
2024年を振り返って

Q2. 2024年の貴社の業績は
いかがでしたか？

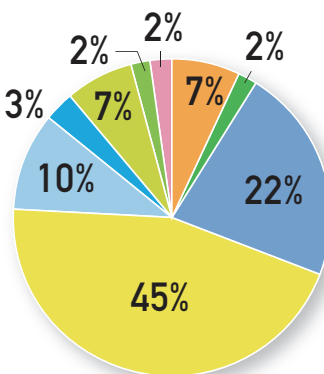


非常に良かった 良かった 普通
悪かった 非常に悪かった

Q3. 前年と比較して
2024年の業績は？

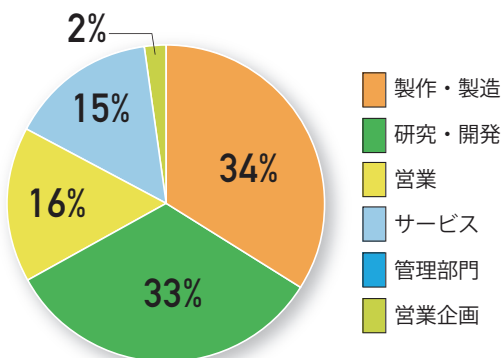


Q4. 2024年業績の伸び率は？

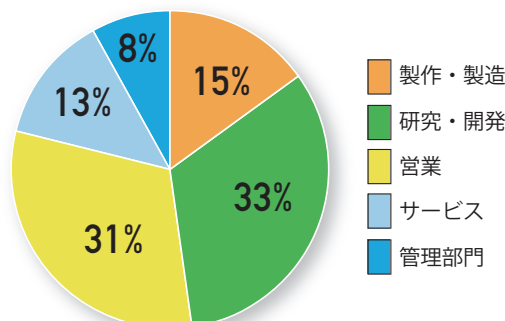


30% 以上 20~30% 10~20% 0~9%
0% (変化なし) 0~-9% -10% -20% 台
-30% 以上 -40% 以上

Q5-1. 業績に貢献した部門は？ (複数回答)



Q5-2. 今後補強したい部門は？ (複数回答)

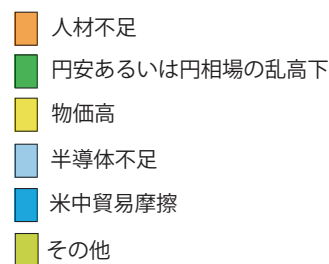
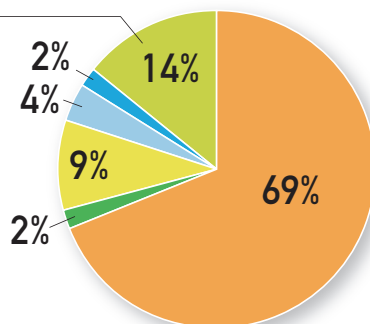


2024年の業績の伸び率(Q4)は71%がプラスと回答、前回の54%から大きく伸長した。2桁成長は31%で、前回(37%)より減少したが、「0~9%」の回答が45%と全体の半数近くを占めた。貢献した部門(Q5-1)は「製作・製造」「研究・開発」がほぼ同数。また、補強したい部門(Q5-2)で前回と比べ「研究・開発」「営業」への回答が増えた。

Q6-1. 最も業績に与えた影響が大きかった出来事は？

(その他)

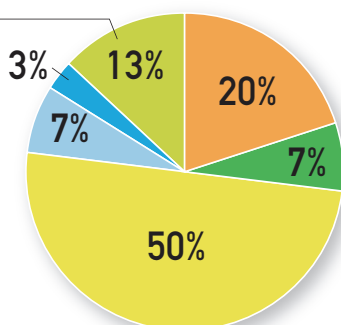
熟練技術者の離反に伴う収益悪化／
開発遅延／品質／顧客メーカーの一部
セグメントの不調に引っ張られた／
顧客のソフトウェア開発の課題がこれ
まで以上に山積／受注／特になし



Q6-2. 2番めに影響が大きかった出来事は？

(その他)

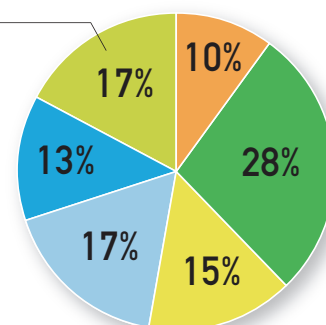
複数の開発案件において
スタートが先送りされた／
生成AIの進歩(それを活用
したサービス構築のために
投資増)／人件費高騰／
労務費アップ／特になし



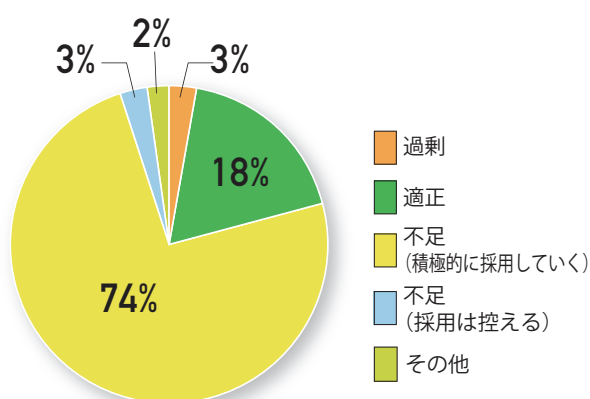
Q6-3. 3番めに影響が大きかった出来事は？

(その他)

経済安全保障にともなう
セキュリティ対策強化／
大口顧客の売上減少／営
業力／技術や環境の変化
／国の政策／特になし



Q7. 技術者の雇用状況は？

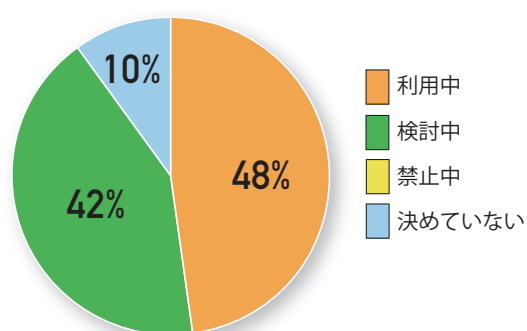


影響のあった要因はいろいろと挙がるだろうが、今回も「人材不足」がもっとも大きくおよそ7割を占めた(Q6)。前回(59%)から10ポイント増と深刻化の傾向がうかがえる。大きく増えたのは「物価高」。1番めとしては9%ほどながら、2番めに50%と回答が集中した。勢いは弱まるものの終わりは見えず、今年への影響も懸念される。

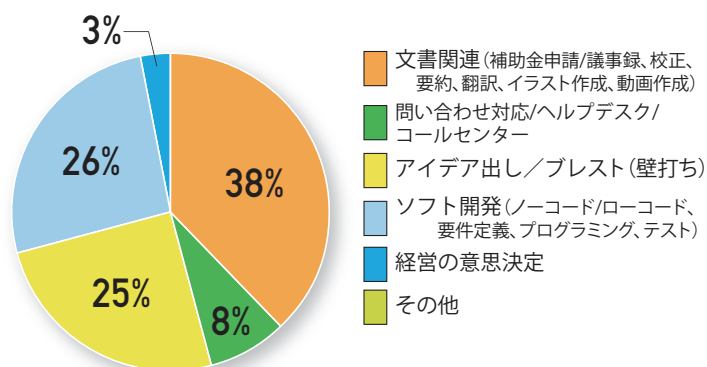
技術者雇用(Q7)は前回(86%)から減少したものの74%が「不足(積極的に採用していく)」と回答。一方で「適正」が18%と前回(9%)から倍増している。

生成AI(Q8)は「検討中」(42%)を合わせ9割が前向きに捉えており、「アイデア出し／プレスト(壁打ち)」への利用が前回(11%)から大幅に増えた。

Q8-1. 生成AIの利用は？

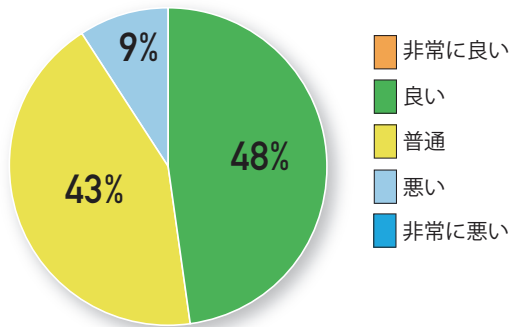


Q8-2. 生成AIは何に使う？(複数回答)



2025年の景況予測

Q9-1. 2025年組込みシステム関係の景況は？



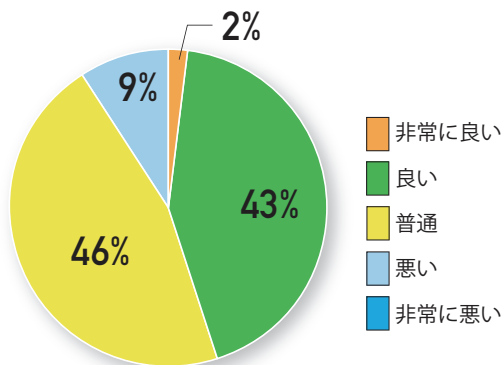
Q9-2. 景況の見立て、その理由は？

■「良い」理由：ソフトウェアデファインドに向け顧客課題が山積／半導体・車載関連業界が引き続き成長／顧客の開発投資が活況／車載・防衛の投資が前向き／セキュリティ対策が加速、それに伴った設計、開発需要が高まる／情報サービスの多様化に伴う開発案件の増加／開発モデルの輻輳化が顕著 など

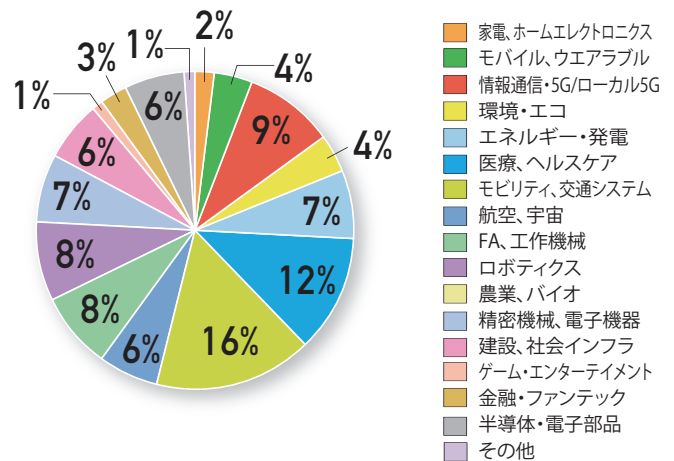
■「普通」理由：エンドユーザ向けサービス開発が伸びる／特に業務・業績への変化が無い／DX投資堅調／客先からの発注量が減少傾向／受託開発は低調となる／別の領域が伸びていく／見通しが立っていない など

■「悪い」理由：国内のエレクトロニクス産業の衰退／開発案件の減少／エンハンスばかりで新規開発が激減／顧客内製化が進む

Q10. 2025年の貴社の業績は？



Q11. 成長を期待する分野は？（複数回答）



気になる2025年業界の景況(Q9)は「良い」とする回答が48%。「車関係など応用分野の成長」「案件数の増加」といった需要の高まりへの手応えに対する回答が多い。43%となった「普通」には、「案件の低調」「見通しが立たない」など、特に変化なしといった受け止めのようだ。

企業単位での業績予測(Q10)は「非常に良い」「良い」の合計と「普通」がほぼ同数。業績向上には応用分野の活性化

が鍵だが、期待する分野(Q11)で2桁となったのは「モビリティ・交通システム」(16%)「医療・ヘルスケア」(12%)のみ。多くの分野が6～9%に平均化される結果となった。

今後、生成AIの活用、DevOpsやプラットフォーム・エンジニアリングの普及が進めば、開発が効率化するサービス提供の可能性も予測されている。今年の干支・巳年の「再生」「成長」というポジティブイメージどおりの1年でいたい。

Q12. 2025年貴社にとってのキーワードは？（抜粋）

- キーテクノロジー、応用分野関連
 - AI／自動生成AI
 - モビリティ
 - ODM開発
 - 低消費電力SoC
 - ローコード開発
- 自社の環境改善・意識改善、新戦略
 - 社会課題の解決提案
 - ソリューション拡大
 - サービス多様化
 - リソース集中
 - 人材採用力UP
 - 人材育成
 - 事業転換
 - DXの推進
 - インフラ点検
 - マルチスキル

Q13. 協会事業活動に対する意見・要望（抜粋）

- 新規ビジネスの創出
- Global Businessを推進する人材育成
- 組込み分野の将来予測や課題の提示
- 人材確保へのアイデア
- 若手のメンバーの参加促進
- 垂直分業から水平分業への移行推進
- 業界活性化と新卒人材確保のための組織的活動
- 会員企業間のコミュニケーションと連携強化
- 人月に代わる価値(金額)基準、根拠の相場作り
- 次世代リーダー育成への取り組み
- メーカーの内製化に対抗できる施策(技術力、競争力、人材の確保/育成/活用/モチベーションの維持)